

# 只見町ブナセンターだより

只見町では、本格的に雪が降る季節となり、毎朝の除雪が一仕事です。年の瀬を迎え一年を振り返ると、今年も多くの方々に来館して頂きました。そして、多くの方々にブナセンターの活動を支援して頂きました。皆様のおかげで充実した活動を行えましたこと、感謝申し上げます。

**開催中【企画展】 2月13日(月)まで**

## 「伝統を編む人々～只見町とボルネオ島と～」

只見町では、様々な自然物を用いた生活用品の自家生産がごく近年まで行われていました。しかしこの町でも、今や生活用品を自分で作ることでできる人はもとより、それを使う人自体もごくわずかになりました。生活用品を作り出す技術と自然の恵みを活用する知恵は、長い年月をかけて先人が築いてきたもので、一度失われてしまえば、再び手にすることは困難です。

この企画展では、只見町における植物を編む伝統文化をとりあげます。その種類や特徴、そしてこの文化がどのように受け継がれてきたのかを見ていきます。また、只見町と同じく、植物を編んで生活用品をつくるボルネオ島先住民の生活文化についても紹介し、伝統文化の伝承について考えます。



▲只見町の編む風景



▲ボルネオ島の編む風景

## 【座談会】「只見町の編む伝統を聞く」

只見町のザルやカゴを編んでいる方を話し手としてお招きし、どのように編む伝統を受け継いできたのか、カゴやザルを始めたきっかけ、継続した理由、只見町の伝統文化への思いなど、お話を伺います。ぜひ、ご参加ください。

話し手 佐藤恒雄さん(叶津)、馬場敏郎さん(塩ノ岐)、三瓶こずえさん(叶津)  
斎藤文良さん(亀岡)、酒井洋子さん(福井)

日時 2017年1月22日(日) 午後1時30分～午後3時

場所 ただみ・ブナと川のミュージアム

※座談会の聴講には入館料が必要です。

## 【写真教室】「只見の雪を記録しよう(写真による自然記録会)」

講師 猪又 かじ子氏

日程 2017年3月4日(土)

場所 ただみ・ブナと川のミュージアム周辺

※詳細については、後日HP、チラシ、友の会メールリングリストなどでお知らせします。

## 【観察会】「冬のブナ林で鳥を観察しよう」

日時 2017年3月19日(日) 午前10時~12時

場所 ただみ観察の森 檜戸のブナ二次林

※雪の状況により場所を変更することがあります。

参加費 高校生以上 500円、小中学生 400円(入館料、保険料を含む)

## ===== 活動報告 =====

### 【講座】10月21日(土)

### 「会津地方のカエル・サンショウウオ類とその生態」

#### 講師：吉川夏彦氏(国立科学博物館)

両生類・爬虫類の専門家で、2014年に只見町内で新種のサンショウウオを発見し、タダミハコネサンショウウオと命名した吉川夏彦氏に講師を勤めていただきました。講座では、会津地方に生息するサンショウウオ類・カエル類のそれぞれの種について詳しくお話しいただきました。会津地方には、サンショウウオ類が6種、カエル類は在来種11種と外来種1種



▲両生類の生息環境の違いを話す吉川氏

が確認されています。只見町では、そのうちサンショウウオ類がトウホクサンショウウオ、クロサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、タダミハコネサンショウウオ、アカハライモリの5種、カエル類がアズマヒキガエル、タゴガエル、ヤマアカガエル、ツチガエル、トノサマガエル、カジカガエル、モリアオガエル、シュレーゲルアオガエル、ニホンアマガエルの9種が確認されています。只見町は自然度

が高く、また多様な環境があるため多くの種が生息しています。各種の説明の際には、液浸標本を聴講者に渡してそれぞれの特徴を直に見てもらったり、録音されたカエルの鳴き声を聴いてもらったりしました。カジカガエルの声を聴いて、「鳥の鳴き声かと思った」という聴講者の声もありました。サンショウウオやカエルの仲間は生態的特徴の違いから産卵環境も大きく異なることも説明されました。例えば、クロサンショウウオとトウホクサンショウウオの卵嚢は山地の湿地などに産み付けられているので目にしますが、ハコネサンショウウオの仲間は、沢の源流の地下水中に産卵するので卵嚢を見ることはほとんどありません。

これまで、全国に広く分布するハコネサンショウウオは同一種と考えられていましたが、

吉川氏が調査するうちに、実は多くの種に分かれていることが解りました。そして、2014年に只見町においてタダミハコネサンショウウオが発見されました。また、会津地方北部にはバンダイハコネサンショウウオが生息していますが、これは只見町には生息していません。ハコネサンショウウオとバンダイハコネサンショウウオは競合するため、同じ地域には生息しませんが、タダミハコネサンショウウオはハコネサンショウウオと競合することなく同所的に生息します。

今回の講座には、26名の方が参加くださいました。講座では只見に生息する両生類の多さから、只見町の自然の豊かさを再認識することができ、それぞれの種がどういった環境を好み、どのような生態を持つのかを知ることができました。これらの生き物たちがこれからも絶えることなく生きていける事、そういった里の環境、山の環境を守っていけたら素晴らしいと感じました。

**【観察会】10月22日（日）**

## **「秋のブナ林と水辺の生き物を観察しよう」**

紅葉の盛りをむかえた布沢の「恵みの森」で秋の観察会を行いました。布沢川に流れ込む大滝沢沿いに整備された散策路を歩きながら、その周囲に生育するブナや、只見町の溪畔林を代表するサワグルミ、トチノキなどを観察しました。前日のブナセンター講座の講師を勤めていただいた吉川夏彦氏に同行いただき、両生類を中心に沢の中に棲む生物の観察も行いました。

今回は、両生類の観察について主に報告します。吉川氏から、サンショウウオは湧水や沢水が流れ込む水温の低い場所を好むというアドバイスを受け、そのような場所を見つけて参加者の皆さんは石を裏返してサンショウウオを探しました。今回見つけることのできた両生類は、サンショウウオ類がハコネサンショウウオ（幼生）1種、カエル類はタゴガエルとカジカガエルの2種でした。参加者はそれぞれ実物を前に吉川氏の説明を熱心に聞いていました。ハコネサンショウウオ（幼生）は、流水域に生息しており、水に流されないようにしっかりと石をつかむために指先には黒い爪があること、背中には黄土色の斑紋があることを観察しました。

タゴガエルは、のどに黒い斑点が密にあり黒っぽく見える点が特徴です。カジカガエルは



▲サンショウウオを手にとり解説する吉川氏

清流に棲み、繁殖の終わったこの時期は森の中でくらしています。カエルを観察する時には、後ろ足を掴むようにすればしっかり観察することができます。

今回の観察会には、町内外から20名の方が参加されました。紅葉の綺麗な布沢「恵みの森」では、いつもは上を見てしまいます。今回の観察会では、目線を自分の足元に落とし、石を裏返して両生類を探すという普段はしない体験をすることができました。

## 【町外展】 11月9日～11月20日 「自然首都・只見」展 in 会津ジイゴ坂学舎

只見町ブナセンターでは、只見町の自然や生活文化について町外の人々に伝える展示会を毎年行っています。今年も、南会津郡下郷町の旧落合分校の木造校舎を利用したギャラリー、会津ジイゴ坂学舎で町外展示「自然首都・只見」展を開催しました。只見町の自然や生活文化の解説パネルとマタタビやウルシのザルなど植物を利用した伝統的な民具などを展示し、ブナの森の映像を上映するとともに、スタッフが来場者に解説しました。

来場者は下郷町や会津田島など南会津の方が多く、白河や郡山など中通りやいわき、栃木方面の方もおり、会期中に140名ほど訪れました。中には落合分校の卒業生で学校の様子を見に来がてら、という方もいました。来場者からは、この次はもう少し足を伸ばして只見町に行ってみたい、ブナ林を歩いてみたいなどの声が聞かれました。



▲展示の様子

## 【町外展 講演】 10月13日（日）、10月19日（土）

### 「只見町の自然と暮らし」「『自然首都・只見』に込められた思い」

町外展では、講演会を2回開き、のべ30名が参加しました。13日には、ブナセンターの河原崎里子と遠藤菜緒子が只見町の特徴的な自然景観である雪食地形やブナ林、只見町の自然を利用したくらしなどについて紹介しました。

2回目の19日は、ブナセンター友の会代表の小沼昇氏と同副代表の鈴木サナエ氏に講演いただきました。小沼氏のご自身が町長在任の頃の思い出を話されました。当時、ブナ林の大規模伐採により、水害の被害が拡大したことから、只見町内ではブナ林の伐採反対運動が起こりました。ブナの森に抱かれた町の豊かな自然環境を見直す機運が高まり、町の第6次振興計画では「ブナと生きる町、雪と暮らす町」という理念を掲げて自然環境を大切にしたい町づくりを進め、「自然首都・只見」宣言をし、ブナサミットを開催した等、のちのユネスコエコパークへの登録のきっかけとなったことがらを紹介されました。鈴木氏は町の公認ガイドとしても活躍されています。町内各所を案内している経験をもとに、只見町の自然の魅力や見どころ、文化や歴史を実感のこもった口調で紹介されました。聞き手からは只見町の雪の深さに驚きの声が上がったり、同じ南会津の中でも食文化などに共通点も相違点もあることを語り合ったりと、それぞれの地域の文化とともに地域



▲19日に講演いただいた小沼昇氏

のつながりの確認ができました。生まれ育った只見町が大好きで、その良さを伝えていきたいです、という鈴木氏の言葉が心に残りました。

## 【講座】 12月10日（土）

### 「豊かな熱帯林が支えるボルネオ先住民の暮らしと文化」

#### 講師：竹内やよい氏（国立環境研究所）

本講座では、開催中の企画展「伝統を編む人々～只見町とボルネオ島と」でボルネオ島のパートを担当して下さった竹内やよい氏にお話しいただきました。竹内氏は、毎年、2か月ほどボルネオ島に滞在します。現地の言葉を覚えて、村長さんのお宅に居留し、熱帯林の植物や先住民の自然利用について調査を行っているそうです。

竹内氏が調査している先住民イバンの人々は、わかっている範囲で250種もの植物を区別



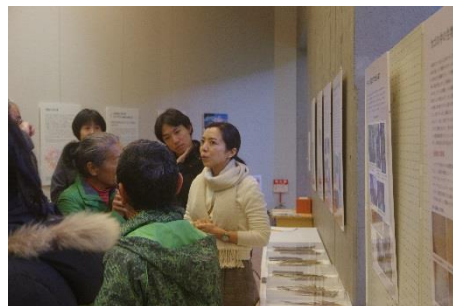
▲会場からの質問に答える竹内氏

し、木材、食べ物、燃料、薬、儀礼など様々な用途に用いています。その中でラタンは、日用品を編む材料としても使われます。ラタンは、熱帯に生育するツル植物の総称で、ボルネオ島では150種ほどが知られています。日本でも、籐（トウ）と呼ばれてクラフトの材料として馴染みがあります。ラタンの種類を使い分けることで、漁撈道具、農作業道具、ザル、運搬用具など日常に必要な様々な道具を編むことができます。

生活に用いる様々な植物は『プラウ』で採取します。プラウは、極力伐採しないよう村で取り決めた森のことで、原生に近い状態で維持されています。そのため、絶滅危惧植物に残された貴重な生育地ともなっています。野生動物にとっても大切な森であり、プラウでの調査で撮影された絶滅危惧種のマレーグマなどの動画も見せていただきました。しかし、熱帯林の開発により、このプラウも失われつつあります。イバンの人々が住むサラワク州で産出された木材の6割が日本に輸出され、合板として用いられているそうです。自分たちの使う物の産地すら知らなかったことに考えさせられました。

町内をはじめ35名の方が聴講され、多くの質問が出ました。編む技術の継承については、伝統的には母から子へと伝えられたそうですが、これは義務ではなく、編むことが好きな人や手が器用な人たちが伝え、広めたということです。遠く離れた熱帯林で継承された、只見町と同じ自然を利用する伝統文化について知識を深めました。

セミナー室での講座後、企画展示室に移動し、展示してあるラタンのカゴやパネルなどの前で、竹内氏に展示解説をしていただきました。竹内氏は参加者の質問に丁寧に答えてくださり、充実した講座となりました。



▲企画展示室での解説

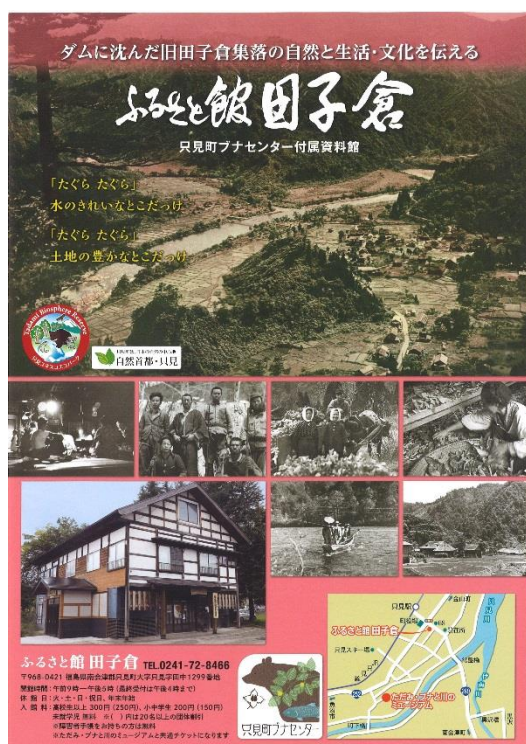
## 【ふるさと館田子倉 11月3日開館】

「ふるさと館田子倉」が只見町ブナセンターの付属資料館としてオープンしました。

田子倉集落は、只見町内（当時・只見村）の只見川最上流部に位置する集落でした。冬季の積雪は4 - 5mを超えましたが、周囲に広がる原始的な自然のもと、天然資源や肥沃な土壌に恵まれた豊かな土地でした。農業を基盤とし、林業・自然物採取・狩猟・漁撈により比較的豊かな生活が営まれ、田子倉集落独自の風習や文化が生まれました。一方、日本有数の豪雪地帯を流れる只見川は、その豊富な水量が戦後復興のための水力発電の場として注目され、国策として電源開発が推し進められました。只見町内では田子倉ダム、只見ダム、滝ダムが建設され、立ち退きを余儀なくされた人々がいます。

田子倉集落は1959年（昭和34年）、田子倉ダムの建設によって湖底に沈みました。2004年田子倉集落の出身である皆川弥（わたる）氏が田子倉集落の歴史や生活・文化を後世に伝える資料館として「ふるさと館田子倉」を公開しました。只見町は2015年に「ふるさと館田子倉」を取得し、あわせて、皆川氏のご遺族が田子倉集落関連の資料を只見町へ寄贈してくださいました。そして、建物の改修を経てこの度の開館となりました。「ふるさと館田子倉」は、田子倉集落の資料の展示を通して、只見町及び日本の社会経済の発展に貢献してきた同集落を、広く次世代に伝えます。また、当館には「只見ユネスコエコパーク推進協議会」の事務局が設置されています。

「ふるさと館田子倉」と「ただみ・ブナと川のミュージアム」は入館チケットを共通となっており、一枚のチケットで両方の施設に一回ずつ入館できます。また、只見町ブナセンター友の会会員の方は、「ただみ・ブナと川のミュージアム」同様に会員証を提示いただければ入館できます。お問い合わせの上、ぜひご来館ください。



ふるさと館田子倉  
968-0421 只見町大字只見字田中 1299 番地  
TEL.0241-72-8466  
館時間：午前9時～午後5時  
最終受付は午後4時まで  
館日：火・土・日・祝日、年末年始  
館料：高校生以上 300円(250円)  
中学生 200円 (150円)、未就学児 無料  
( )内は20名以上の団体割引料金

## 【連載：世界のBR (Biosphere Reserves: 生物圏保存地域) No.11】

ユネスコエコパークというのは日本国内の呼び名で、国際的には生物圏保存地域 (Biosphere Reserve: BR) といいます。現在、120カ国に669のBRがあります。ここでは、海外のBRをシリーズで紹介します。只見町がBRに指定された翌年の2015年には新しく20の地域が登録されました。ここでは、2015年に登録されたBRの1つを紹介します。

### The Cacique Lempira, Señor de las Montañas (Honduras) カシケレンピラ山脈地帯 (ホンジュラス, 中央アメリカ)

カシケレンピラ山脈地帯BRはホンジュラス西部に位置し、約17万haにおよびます。マツとカシの混成林と熱帯多雨林で森林が構成され、数多くの絶滅危惧種と地域固有種が生息する地域です。生息する野生動物の多くが地域固有種であることからコンサベーション・インターナショナル (注 国際NGOの自然保護団体) によってEBA<sup>※1</sup>の1つに指定されました。生物圏保存地域内には15万人を超える人々が住んでいます。経済活動の大部分が伝統的な農業で占められています (87%)。主にトウモロコシ、豆などの作物が作られ、その他にコーヒー豆の生産が増えています。レンピラ町では観光を推進した結果、国内外からの旅行者が増えています。

※<sup>1</sup>Endemic Bird Area 直訳すると地域固有鳥類の生息地域



次のサイトの文章を和訳して転載しています。

出典 <http://www.unesco.org/new/en/mediaservices/multimedia/photos/mab2015/honduras/>

## 【河野昭一先生を悼む】

去る10月14日にブナセンター名誉館長でいらした河野先生が亡くなりました。80歳でした。先生は植物の生活史研究において多くの業績を残され、後進の育成に努め、そして各地の自然保護活動の先陣を切られました。只見町においてはブナ林の保護活動を牽引され、学術調査によって只見町のブナ林を中心とする自然環境の価値を明らかにし、さらにはブナセンターの発足に貢献されました。これらの活動は今日の「ブナと生きる町、雪と暮らす町」という町の施政方針の礎となっています。先生のご冥福をお祈りします。



## 【寄贈図書】 2016年9月～12月

以下の通り図書を寄贈いただきましたので、ご報告します。ご寄贈くださった方々に感謝申し上げます。

- ・佐藤勉さん（我が南会津）
- ・会津生物同好会（会津生物同好会誌 No.22～49（No.23、No.26を除く））
- ・十日町市立里山科学館 越後松之山「森の学校」キョロロ（ブナってどんな木？／オトシブミをみつけよう！／みぢかなありんこ図鑑／雪里研究第3巻／棚田と生きる／雪里のブナ林の恵み／雪－めぐみ降るさと／雪里－世界一の雪が育んだ里山、等9冊）
- ・及川幸彦さん（海洋教育のカリキュラム開発－研究と実践－）
- ・加藤美咲さん（葉っぱの贈り物～光合成からみた環境破壊と恵みの森のブナ林[研究報告書]）
- ・榎原寛さん（エコツーリズムで三宅島復興！三宅島の自然ガイド／カミキリムシの生態／新版 昆虫採集学／自然とともにだちになる法3森の昆虫／沈黙する熱帯林 現地からの報告／日本の甲虫 その起源と種分化をめぐって／日本の甲虫 侵略と攪乱の生態学／スギノアカネトラカミ キリの被害と防除／元気な森の作り方 材質に影響を与える林木の被害とその対策、等19冊

## 【只見町ブナセンター 2016年度12月以降の行事予定】

| 開催期間               | 行事名   |
|--------------------|---|
| 2月13日（月）まで         | 【企画展】 伝統を編む人々－只見町とボルネオ島と                    |
| 1月22日（日）           | 【座談会】 只見町の編む伝統を聞く                           |
| 1月28日（土）           | 平成28年度「自然首都・只見」学術調査研究助成事業<br>研究成果発表会        |
| 2月11日、12日（雪まつり期間中） | ミニ観察会「雪の公園を歩く」                              |
| 2月18日（土）～4月3日（月）   | 【企画展】 昔の写真から見た只見町～雪の記憶                      |
| 3月4日（土）            | 【写真教室】 只見の雪を記録しよう（カメラによる自然記録会）<br>講師：猪又かじ子氏 |
| 3月19日（日）           | 【自然観察会】 冬のブナ林を歩く                            |

【編集後記】 講座、観察会、町外展と充実した3か月間でした。ブナセンターだよりを編集しているとイベント内容を反芻でき、もう一度参加しているような気持ちになります。

来年も只見町ブナセンターをよろしく願いいたします。

発行 **只見町ブナセンター** 〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地

電話 0241(72)8355

ホームページ <http://www.tadami-buna.jp>

FAX 0241(72)8356

電子メール [info-buna@amail.plala.or.jp](mailto:info-buna@amail.plala.or.jp)



開館時間：午前9時～午後5時（最終受付は午後4時まで）

休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）

只見町ブナセンター

入館料：高校生以上 300円 小中学生 200円 未就学児無料（20人以上は団体割引）